

RESAS を活用した政策立案ワークショップ(岐阜県瑞浪市)

第2回概要

令和4年9月

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

内閣府地方創生推進室

経済産業省中部経済産業局

1. 第2回ワークショップの概要

- テーマ：瑞浪駅周辺再開発事業
- 日時：令和4年9月1日（木）13時30分～16時00分
- 会場：ワークラボ八ヶ岳
- 議題：（1）内閣府の EPBM の取り組みについて紹介
（2）瑞浪市の取り組みと検討内容、他市比較の分析結果の報告
（3）茅野駅前活性化の取り組み、茅野市版 MaaS の紹介
（4）瑞浪駅周辺再開発に対する意見交換
- 共催：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
内閣府地方創生推進室
経済産業省中部経済産業局
岐阜県瑞浪市
- 参加者：岐阜県瑞浪市
長野県茅野市
森ビル株式会社 都市開発本部計画企画部
メディア企画部 参与 矢部 俊男氏
内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
内閣府地方創生推進室
経済産業省中部経済産業局(総務企画部企画調査課)

2. 当日の発表及び意見交換等の概要

①内閣官房地方創生推進室の EBPM の取り組みについて

【内閣府地方創生推進室よりプレゼン】

- デジタル田園都市国家構想の全体像とビッグデータチームの取組、RESAS を用いた地域課題分析フロー、瑞浪市と茅野市の比較についてプレゼンテーション。

②瑞浪市の取り組みと検討内容、他市比較の分析結果の報告

【瑞浪市よりプレゼン】

- RESAS 等のデータを用いた他市との比較分析と市民ニーズに基づく具体的施策提案についてプレゼンテーション。

③茅野駅前活性化の取り組み、茅野市版 MaaS の紹介

(詳細は発表資料参照)【茅野市、矢部氏よりプレゼン】

- コワーキングスペース「ワークラボ八ヶ岳」、新しい地域公共交通、都市構造可視化の取組についてプレゼンテーション。

④意見交換

i. 茅野市の事例について(仮)

<茅野市デマンド交通「のらざあ」について>

- 毎年茅野市から地域の公共交通に補助金を出していたが、それが年々増加傾向であったため、地域公共交通に代わるツールとして「のらざあ」の実装に踏み切った。「のらざあ」のランニングコスト(車両リース等)に関しては、路線バスを維持するために必要だった補助金額を上回らないことを目安に運用している。
- 路線バスから「のらざあ」への移行にあたっては、高齢者への普及が課題である。本年9月をもって路線バスを廃止し「のらざあ」に移行することとなっているが、現在路線バスを利用している市民が300名ほどおり、その中には高齢者やスマートフォンを使えない人も多い。「のらざあ」の予約方法としてスマートフォンアプリの他にコールセンターを併設しているものの、電話のみでは乗降スポットの場所を正確に伝えるのが難しく、実際に乗り口が分からず利用できなかったという事例も見られる。現在も高齢者への普及に向けて地区説明会を実施している。
- 「のらざあ」の制度設計は茅野市が行ったが、運用は複数の交通事業者が共同で行っている。実装にあたっては、民間事業者をうまく取り入れながら調整している。

<ワークラボ八ヶ岳について>

- 茅野市には多くの別荘があるが、別荘にはWi-Fiが無い等の理由からテレワークができる場所が欲しいというニーズがあった。そういったニーズをくみ取り、茅野市が一部補助金を出して市内のワーケーション施設整備を推進した結果、ワークラボ八ヶ岳以外にも民営のワークラボが派生していった。現在では市内に合計6つのワークラボを冠するコワーキングスペースがある。
- ワークラボ八ヶ岳の稼働率は一般的なコワーキングスペースと比べて圧倒的に高い。これは、ワークラボ八ヶ岳を作る際に1年間事前調査を行

い、利用者層の把握や利用者のニーズを捉えたテナントデザイン、賃料設定にしたことによるもの。

- ワークラボ八ヶ岳が入居している駅前ビル（ベルビア）の3階には0123広場という子育て支援施設があり、子どもを遊ばせることができるため母親世代がよく利用している。
- 瑞浪市でも、計画している施設に子どもを預けられる機能を備えれば、コワーキングスペースの利用率も抜群の数字になるのではないか。また、瑞浪駅から電車で名古屋に通勤している親も多いと思われるので、そういった層にも喜ばれるのではないか。

ii. 瑞浪市の事例について(仮)

- 瑞浪市の発表資料のSWOT分析の部分については、若手職員の意見をもとに取りまとめたもの。ただし、RESAS等によるデータでの裏付けまでできていない。
- 瑞浪市の保育園・幼稚園の現状について、瑞浪市内には保育園が4園、幼稚園が8園あり、待機児童0を維持している。現在は公立では土曜日の開園や延長保育も実施している。駅前に子どもを預けられるような施設があると良いという利用者の声もあり、駅前再開発計画にて検討しているところ。
- 現在の瑞浪市のファミリーサポート制度は事前予約制であるため、急遽子どもを預けたいといったニーズには対応できないものとなっている。制度利用者を対象としたアンケートからもこの点の改善ニーズが読み取れた。そのため、地元の大学の保育科在学生在をサポートとしてうまく取りこんで、この課題を解決する施策ができないか検討している。
- 瑞浪駅北には市営の駐車場もあるので市外の方も利用しやすいのではないか。市外からの利用についても、料金に差をつけつつ受け入れる方が、持続可能性が高くなると考えている。
- 瑞浪駅周辺再開発計画においては、駅北の施設には図書館やカフェ、学習スペースや閲覧席を設置し、子育て世代の他にも幅広い年代が活用できる施設を目指している。

iii. コワーキングスペース整備におけるポイントについて

<ワークラボ八ヶ岳の成果について>

- 茅野駅前のコワーキングスペースでは、電車の時間ギリギリまで利用する人も多い。そのためワークラボ八ヶ岳は、夜の英語教室、休日の習い事など事前調査の段階で様々な需要に応えられるようにデザインした。単なる

図書館の閲覧スペースのようにしてしまうと失敗する可能性が高い。コワーキングスペースを運用するにあたっては、事前にリサーチ、シミュレーションをした方がいい。24時間利用可能とするのが100%稼働の秘訣。

→出張で瑞浪市に来る人は少ないため、茅野市のようなコワーキングスペースの利用は想定していないが、リモートワーク等も進んでいるため、そのような需要は取りこぼさないようにしたい。

- ワークラボ八ヶ岳運営開始から5年間で得られた効果として、高校生や公立諏訪東京理科大学の学生など、茅野駅の利用客層の変化が見られた。また、創業の増加や商業の売上への貢献も見られる。駅前のコワーキングスペースは需要が高いと思われるため、安売りする必要は無い。
- 近年全国的にコワーキングスペースが増加しているが、今後はコワーキングスペースが飽和状態になっていくのではないか。

→確かにコワーキングスペースは増えているが、成功しているものは少ない。特に駅に直結していないコワーキングスペースが成功するのは地方ではとても難しい。また、利用客や使い方についても多重性を意識しないと、何かあったときに全滅する可能性がある。

3. 今後の方向性・次回に向けてのまとめ

第2回ワークショップでは、「未来の子どもたちに渡せるまち」というコンセプトのもと、瑞浪駅周辺再開発の有効性を高めるために瑞浪市が提案した施策の具体化を行った。また、長野県茅野市の取組事例や意見交換を踏まえ、提案した施策を進めるうえで押さえるべきポイントや課題点を検討した。

今後のワークショップでは、第1回、第2回の総括を行うとともに、施策のさらなる具体化に向けた検討を進め、その有効性を分析する。

以上